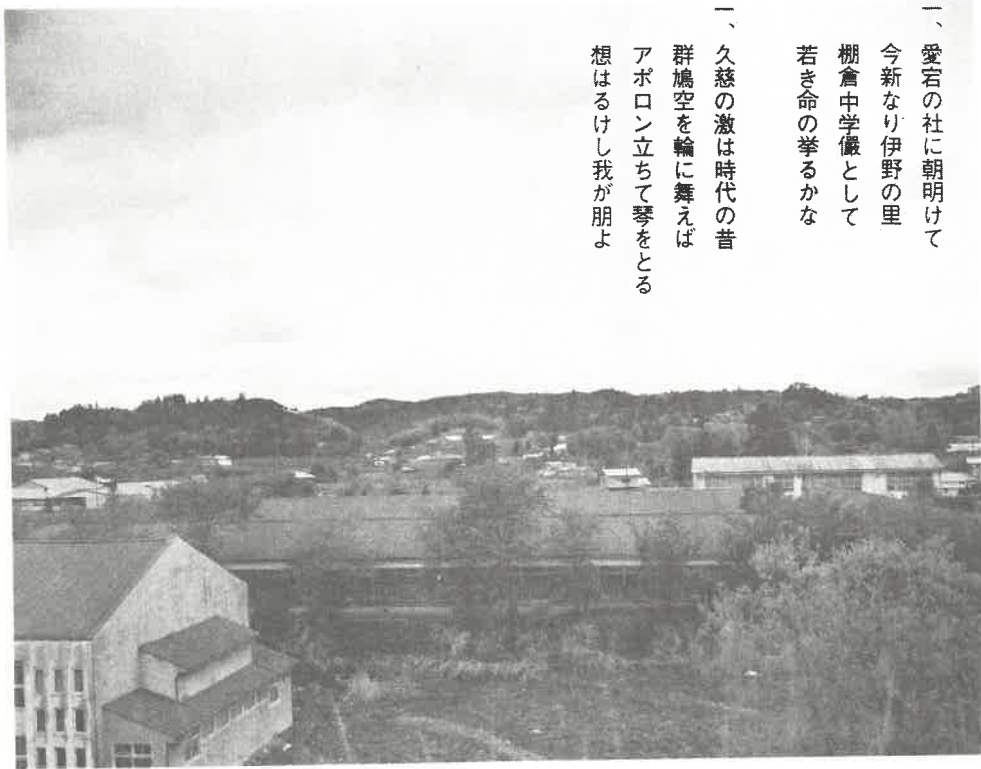


棚倉

一、愛宕の社に朝明けて  
今新なり伊野の里  
棚倉中学儼として  
若き命の挙るかな

一、久慈の激は時代の昔  
群鳩空を輪に舞えば  
アポロン立ちて琴をとる  
想はるけし我が朋よ



社川

一、八幡の森のかたえなる  
向が原の学び舎に  
高き文化をめざしつゝ、  
いざ友垣よ学ばなん

一、流れも清き社川  
大海原をこゝろざす  
よどまぬ水に心して  
いざ友垣よ学ばなん



近津

一、都々古の森の影ふかく  
久慈の流れの澄むところ  
丘の上高き学舎に  
希望のあふるゝ若人が  
睦の泉くみかわし  
真理の道を進み行く

一、三王山のあさぼらけ  
匂う桜の花の色  
木蔭に涼し山百合の  
香りは清く流山  
あゝ若き日のわが誇り  
心の花よ永遠に咲け



高野

一、久慈川の水上とおく  
尋ねきて  
われは知る水の姿を  
泌みいずる苔水のあつまりて  
沢となり早瀬となるを  
思いみるこの深きまごころ

一、山住みの生活のな  
人となり  
われは知る山  
あまぎろう  
のぞみ  
思いみる

